

川内原発からの距離30^{キロ}

考えよう原子力防災

町では、九州電力川内原子力発電所からの距離が30^{キロ}圏内（UPZ圏内）となる山門野、下山門野両地区を対象に、9月19、20日の両日、田尻小学校、汐見小学校を会場に住民説明会を開催しました。

対象となったのは田尻、火ノ浦、汐見、潟、広野集落で、2日間の説明会には、住民や消防団員など合わせて約120人が出席しました。

長島町地域防災計画（原子力災害対策編）が策定され、これに伴い、町の防災担当者から「平成25年度原子力災害総合防災訓練」の説明などがありました。記憶に新しい福島第一原発事故の影響から、住民らは担当職員の説明に聞き入っていました。国の原子力災害対策指針では防護措置の一環として、住民などに対し教育および訓練を行うこととなっており、今回の説明会が「教育」に当てはまります。



↑説明に聞き入る住民ら（田尻小学校）

平成23年3月、東京電力福島第一原子力発電所事故が発生したことから、国が原子力災害対策指針などの原子力防災対策を見直しました。国の見直しに伴い町は、長島町地域防災計画（原子力災害対策編）を策定しました。現在、同計画に基づき避難計画、各種マニュアルなどを作成しています。

町が計画しているUPZ圏内の5集落を対象とした避難計画

①原発事故発生

②UPZ圏内は屋内に退避する



③緊急時モニタリング値に応じ

- ・数時間内に避難を実施
- ・1週間程度内に一時移転
- ・飲食物摂取制限などを行う

実際の災害時の避難行動は原則自家用車で、自家用車のない人や、災害時要援護者（高齢者、障がい者、乳幼児や妊婦など）の避難は、町の準備するバスなどで指定した避難路を使用して、鷹巣地区へ避難します。避難者のスクリーニングや除染は所定の場所で行い、修了者には風評被害防止のため証明書を配布します。

被ばくから身を守るには・・・

◇外部被ばく

- ・放射性物質から距離をおく
- ・長時間放射線を浴びない
- ・遮蔽する（覆い隠す）

◇内部被ばく

- ・マスクなどで吸引防止する
- ・汚染された水や食べ物を摂取しない

覚えておこう
原子力に関する用語

原子力災害

放射線や放射性物質が発電所などから外に漏れて、人々に影響を及ぼすこと

放射線

自然界にも存在し、近代ではX線など医療の分野でも活用されている

外部被ばく

体外にある放射線源から放射線を受けること

内部被ばく

放射性物質を吸入、経口摂取などにより体内に取り込み、体内から放射線を受けること

UPZ

緊急時防護措置を準備する区域で、原発から約30^{キロ}の範囲（町内は5集落が該当）

EAL

緊急事態における防護措置の判断基準に使用する緊急時活動レベル

ベクレル（Bg）

放射能の強さで放射性物質に対して使用する単位

シーベルト（Sv）

放射線を受けた人体への影響